



建國祭と舊正元日

あす平町の賑はひ

明十一日の建國祭に平町では午前十一時から第一小学校庭で記念祝賀式を舉行、各中等学校、小學校、公私立學校、愛國婦人會、國防婦人會、在郷軍人、青年團員數千名が参加、大領青年團長の式辭、青沼町長の言宣朗讀、決議の後遙拜、國歌、紀元節歌合唱・

萬歳三唱の後各種團體代表は

縣社子鍬神社に非常時克服國威宣揚を祈願する一方参加者は三班に分れて樂隊を先頭に町内を愛國行進することになつてゐる。恰かも明日は舊正月の元旦に當つて居り近郷から繰出する人も多く建國の春とおらが正月を壽く人々で町は一人の賑はひであらう。

炭界の好況反映

内郷で兒童收容難

明年度に小學校新設

内郷村では自下明年度豫算の編成を急いでゐるが大体前年より一萬圓増額の十四萬五千圓と見られてゐる、而して總額の六割五分即ち九萬二千七百圓は教育費に充てられ恐らく全國各町村を通じ豫算總額の六割以上を教育費に充當するのは同村以外にあるまいと云はれてゐる、同村に於ける就學兒童は現在六千人に達し而も最近軍需インフレによる重工業の盛況から炭礦は大戦以來の好況をつゞけ移住者累々

調査機能を擴大

磐城炭礦の水害對策

内郷村磐城炭礦では舊冬來、一折柄需要期を控へて大打撃を受けたがその挽回打開策とし

日本刊印社
新潟県平町大町二三
新潟新聞社
牛谷政喜
發行所
講座
常識講座
テンボラルは浮世の現世の世俗のまゝな俗事とか世事の意でテンボラリイは一時の當分の間の余暇の個所にはボーリングを下すなど灾害防止に當座の「暫時的」の謂だ、リアルは現實的でしてリアリチーと云ふ

の出水事故に鑑み調査部の機能を擴大し採掘個所にはボーリングを下すなど灾害防止にて新斜坑の掘進に全力を擧げて新たに此程漸く本局に到達、出放を開始現在日産三百五十噸を上げるに至り當事者は愁眉を開いた、更に從來

萬全をつくすことになつた

井村西小川無職鈴木虎男(三三)

といふ無免許周旋屋で子供達

に小娘達數名を連れた衆動不

到達、出放を開始現在日産三百五十噸を上げるに至り當事者は愁眉を開いた、更に從來

